

清水 正の

一里一尺

～自然をたずねて～ ⑬

自然観察「冬物語」

～木の形、冬芽、葉痕～

今年は冷え込みが厳しく、クリスマス前だと言うのに各地で大雪の話が聞かれます。いつものことながら冬になると多くの花は終わり、落葉樹は葉を落として眠りに入ります。それでも自然の営みやありように目を遣れば、普段は気がつかない面白いことや不思議な

ことが目につきます。

センダンの謎解き

毎年のように冬になると私の家の前にピーナッツのような色形、大きさがものが落ちていきます。日を追うごとにその数は増えていきます。初めて出会ったときには何だろうと思いました。一つ拾い上げると堅い殻で縦に稜が幾筋か見えます。どうも何かの実のようです。落ちている実を繋いでいくと一筋のラインが浮かび上がりました。その上を見上げると電線がありました。電柱の下にも散乱していました。そこではたと気がつきました。鳥が電線に止まって糞をしたものだろうと確信しました。次に思ったのは、この実は何の実、誰が運んできたの？でした。わが家は太閤秀吉が宇治川の堤防上に

作った大和街道にあります。散歩に河原を歩くことがよくあり、この時期になると河原にあるセンダンの葉を落とし、実だけが沢山ぶら下がっているのを見かけます。初めは緑だった実が晩秋ともなるとベージュ色に変わります。こうなると目ざとく見つけて群れでヒヨドリがやって来ます。群れがた



センダンの種



センダンの萌芽枝

かるとともに一気に実は無くなつてしまいます。カラスもよくついでばんでいます。この光景が目につかび、さっきの話と一つの線で結ばれました。そこで河原に出てセンドンの実を拾い潰してみました。家の前に落ちていたものと同じものが出てきたではありませんか。正体がわかりました。そして運ぶもの達も。こんな大きな実を食べることが出来るのはヒヨドリやカラスのような大形の鳥しかあり得ないですからね。少し時間がかかりましたが謎解きが出来てすっきりしました。

陽樹の戦略と樹形

宇治川の河川敷にも多くのセンドンが生育しています。数年おきに国交省は大雨の時の洪水対策として一斉伐採を行います、また

数年で大きな木へと成長を遂げます。まさにいちごっこです。センドンの持つ生命力の強さには驚きます。わが家の裏にセンドンが庭に生えた家があります。直径が二十数cmになつていてでしょうか。二年前に突然一階の屋根より上ぐらいで幹が切られました。それから一年、伐られた二股の所から出た萌芽がすくすく伸びて二階の屋根を越えました。その数は何と十二本です。途中枝を出すことも無く一直線です。その先には沢山の葉が付いています。この姿には驚きました。成長の早いことは知っていました、まさかこれほどとは思いませんでした。さすがに陽樹としての面目躍如といった感じ

です。
陽樹とは陽の当たるところをこのむ木で、タラノキやアカメガシ

ワ、ウルシの類、クサギなどがあります。これらの木は森にギャップ（空隙）が出来たら、一番に生えてきます。そして何をおいても幹を伸ばすことに専念し、枝は後回しか最小限につける性質を持っています。

例えて言えば、まず自分の生きる場所を他よりも早く占領して太陽の光をいっぱい受け、光合成量を増やし、他の種との競争に勝つ戦略と言えます。

「梅檀は双葉より芳し」 って本当ですか？

しかしこの家の主は驚いたことでしょう。木を伐つて明るくするはずだったものが、また同じくらいの高さにまで回復したのですから。広葉樹の場合、萌芽更新といって切り株から沢山の萌芽が出て再

生するということが知られていません。これはまさにそれを絵に描いたような出来事です。昔の人はこのことをよく知っていて、里山などでコナラやクスギの木を薪炭林として利用するとき、一〇〜一五年生の木を伐採し、その萌芽を幾つか残し育てていました。考えてみれば、元木は大きく根を張り、そこから沢山の養分を吸収する訳ですから、種や苗から育てるより効率的で利に叶った方法だったのです。ところで皆さんは「梅檀は双葉より芳し」といった言葉を聞いたことがありますか。観察会でセンダンを見つけたとき、必ず「この木はいい香りがするんですよ」といわれることがあります。残念ながらいい香りはしません。「梅檀は双葉より芳し」といわれるところの梅檀は熱帯アジア産の香

木ビャクダンのことです。実に紛らわしい話です。

妹が見し棟（あふち）の花は散りぬべしわが泣く涙いまだ干なくに（山上憶良）

*棟（あふち）とはセンダンの古語です。

ひつじの顔はオニグルミ

この巻が届く頃はまだまだ寒く花も少なく、野山を歩くには少しためらいがあるかもしれません。しかし冬には冬の野山歩きの愉しみ方があります。まず手始めにセンダン（写真①）を見てみましょう。この木の枝を見ると葉が落ちた痕（葉痕）があります。それぞれの木ごとで形が違います。何だかひょうきんな猿の顔のように見えませんか。何に見えるかは人それぞれ、想像力を逞しくして見て

ください。葉痕は大きい葉や複葉の葉を持った樹が面白いです。次には代表的な葉痕のオニグルミ（写真②）を見てみましょう。センダンに似てるけど微妙に違います。羊の顔に見えませんか。私はひつじ年の時、これをストラップにして人にあげたりしました。アオキ（写真③）は襟のある服を着た紳士が少し太い目の枝に付いてます。アジサイ（写真④）は葉痕の上に葉芽があり、それとあわせると王冠を被った南の国の王様ととってもいいかな。タカノツメ（写真⑤）といっても唐辛子ではありません。ウコギ科の木の名前です。コシアブラとともに山菜としても知られています。両者ともに点々模様の付いたV字型のネックレス。少し小さいけどバリエーションも多く何かの動物のようでもあり、沢山

探してみたくなるクズ（写真⑥）
太いツルのものが見やすいです。

日本では秋の七草ですが、アメリカでは侵略的外来種として嫌われる者になっています。ところ変われば

です。ね。葉痕には小さな点がい
くつか見えます。これは根からの
養分や水分を葉に運ぶ維管束の痕
です。木によって並び方や数がま
ちまちで、これが目に見えたり口

になったりで葉痕を見るのをたの
しくしてくれています。

冬の樹学校

一年冬芽組の勢揃い

落葉樹は葉を落とす晩秋になる
と、冬支度をして冬芽（休眠芽）

という形で春を迎える準備をしま
す。冬芽には葉になる葉芽、花に
なる花芽、両方が一緒に入ってい
る混芽などがあり、よく見るとど
れも少しずつ違った形をしていま
す。冬の植物観察では葉痕と冬芽
を使って樹の種類を知ることが出
来ます。

それでは具体的に冬芽を観察し
ていきましょう。アジサイ（写真
④）とオオカメノキ（写真⑦）。い
ずれも葉のままの形です。オオカ
メノキは春が近づくと兎の耳のよ
うに見え、観察者を喜ばせます。



写真① センダンの冬芽と葉痕



写真② オニグルミ葉痕と冬芽



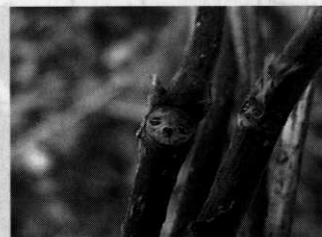
写真③ アオキの葉痕



写真④ アジサイの葉痕と冬芽



写真⑤ タカノツメ葉痕



写真⑥ クズの葉痕



写真⑦ オオカメノキの葉痕



写真⑧ トチノキの冬芽



写真⑨
ホオノキの冬芽
(Newton 植物の世界
樹木編 河野昭一 監修
Newton Pressより転載)



写真⑩ コブシの冬芽



写真⑪ タブノキの冬芽(混芽)



写真⑫ クロモジの冬芽(葉芽と花芽)



写真⑬ イヌビワの冬芽

トチノキ(写真⑧)は大きい葉を包むので特別に大きい芽を持ち、まわりは水飴状の樹脂に覆われべとつくとともに艶々しています。冬芽観察初心者向きですね。同じ

ように大きな葉を包むので小指くらいの大きさになるホオノキ(写真⑨)。春には一枚一枚はがれ、スプーンの先のようなものが下に落ちていきます。これがホオノキの芽を包んでいた一枚です。次も大きな芽でオーバーでも着込んだかのような毛に覆われているコブシやタムシバ(写真⑩)です。春が近づくと従って大きく紅くなって目立つ混芽のタブノキ(写真⑪)、十二単衣のように何枚も何枚も重ねて包んでいます。尖った葉芽の下に拳を突き上げたかのように花芽をつけるクロモジ(写真⑫)。ピエロのトンがり帽子を被ったようなイヌビワ(写真⑬)。まだまだあります、後はあなたが野山に出て探してみてください。(冬芽山歩に便利な「冬芽ハンドブック」文一総合出版)